

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172000705		
法人名	有限会社グループホーム花		
事業所名	グループホーム花		
所在地	小樽市最上2丁目19番9号		
自己評価作成日	平成36年11月5日	評価結果市町村受理日	平成24年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域交流として近隣の中学校の文化祭に招待されたり、中学校の生徒や保育園の園児たちがグループホーム花に来訪など地域の方達とのふれあう機会がふえて来ています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [http://www.kajgokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_2011\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0172000705-00&PrefCd=01&VersionCd=022](http://www.kajgokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0172000705-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あいビル7階
訪問調査日	平成 24年 11月 15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

手狭で老朽化した1ユニットのホームから、2年前、現在の2ユニットのホームへと移転し変身を遂げた「グループホーム花」は、全てにゆとりのある設計で、運営者を始めとする職員みんなの英知を結集して出来上がった理想の「家」と言えます。家族など訪問者のための広いスペースを有する駐車場は、ホームで行われるフリーマーケットを始め多くの行事にも利用されています。管理者始め職員は、この理想の家に住まわれる利用者一人ひとりの身体能力の持続を最大限に考慮しながら、「やれば出来る」というポリシーを柱とした力強く細やかな配慮のもと、楽しい暮らしが展開されています。職員の変らぬスキルの向上心と相まって、このホームが更に豊かな「家」となることを確信しました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや申し送り、係わりの見直し時にも理念にふれ合い共有し実績に向け日々取り組んでいる。	職員は地域密着型サービスの意義をよく理解し、利用者との日常的な暮らしの中で理念の実践に努めています。今後は家族や近隣の住民の方々にも理念の意義を出来るだけ理解していただくよう啓発に努めることとしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	畑を作り2年目、散歩がてらの畑の状態を見に行ったり利用者の方に話しかけてくれたりと日常的に交流している。	移転後2年が経過し、近隣住民の方々との付き合いが増えつつあり、ホームでのフリーマーケットには住民の参加に加え、品物を持ち込んでの参加など地域のイベントとして定着してきました。また、中学生や老人会との交流が盛んとなっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームでの行事「雪明り」「フリーマーケット」に来ていただいたり利用者の方が地域の中で参加できることにより地域の人々に認知症の人に対する理解を深め生活が出来るよう支援している。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの活動状況、利用者の方の日常生活への取り組みの報告を行い意見や提案を受けサービスの向上に活かしている。運営推進委員会は2ヵ月に1回行っている。	2ヵ月毎の開催により、事業の報告やこれからの予定などを伝えて出席者から意見をいただいています。家族の出席が若干少ないこと併せて会議内容にややマンネリ化の状況が見られます。	会議の意義を家族に周知するため、あらゆる機会を活用する取り組みが望まれます。医師もしくは包括支援センターの方の講話を組み入れるなどバラエティに富んだ内容の取り組みが望まれますし、議事録は全ての家族に送付することを期待いたします。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない点や確認などがあれば直接、市役所の担当者の所に出向いたり電話にて連絡を密にとり積極的に協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターの職員との関わりや市の担当窓口での照会など連携を深めています。今後は外部評価の結果について市の担当者とともに連携を深めて、サービスの向上に努めたいと考えています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは身体拘束は行なっておらず玄関出入り口にはセンサーがついてあり、日中に関して施錠はしていない。職員会議での研修を行いお互いに共有し合い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	管理者を始めとする職員全体が、目くばりと気くばりにより、利用者の明るい暮らしを支援しています。また、身体拘束などのないケアが普通の状態で行われています。施錠ではなく、エントランスの出入りにはセンサーによるチャイムが優しく聞こえています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議により虐待についての職員間の認識を共有し見過ごされることがないように虐待防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援はケアプランに沿って行なっている。成年後見制度については利用者の必要に応じて支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時などケアについても十分に説明を行い、その上でご本人やご家族に不安や疑問点を説明し納得していただき同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望、苦情がある時は直ぐに対応するようにしている。	家族の訪問頻度が高く、それら訪問に際しての会話を大切にしています。家族の方々の意見や要望を大切にし、話しやすい雰囲気作りに努めています。運営者はもっと多くの意見や要望を得て、ホームの改善、サービスの向上を図りたいと考えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で職員の意見や要望を開き反映させている。	運営者も出席しての全体会議では、職員から活発な意見が出されています。イベント後の反省や改善に向けた提案ならびに暮らしの中の気付きなどについては風通しの良い雰囲気の中で行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に会議の出来る環境や雰囲気を作っており各自が向上心を持って働けるような職場環境条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に行ったときには職員会議にて研修報告を受け職員全員で良い技術などを取り入れ話し合い等を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の文化祭に参加させていただいたりして同業者の職員の動きなど見学させて頂いたり交流をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する前に、ご本人・ご家族と面会をしご本人の状況、状態を把握する。困っている事、不安な事、要望等にご本人が安心されるまで耳を傾け信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事、不安な事、要望がある場合は時間を作り相談に応じている。そしてできる限り要望に副うようにしお互いの信頼を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況や状態を把握しご本人ご家族が必要としているその思いに副うケアを行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来る事はやって頂き、ご本人がホームでの役割を持ち生活できるよう支援し、より良い関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にてご本人の日常生活での様子や状態を密に報告し把握して頂いている。またご家族に連絡したい時は橋渡しをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からのかかりつけ医や行きつけの美容室に行ったり、関係が途切れないようにしている。また近所の方や友人が気楽に面会に来られるような環境づくりに努めています。	入居時のアセスメントで得た利用者の生活歴などを把握しながら、馴染みの関係を永く継続できるよう支援しています。デイサービス時代の仲間が時折訪ねてくれた際には、職員と共に歓迎しています。馴染みの美容院やかかりつけ医の受診など馴染みの場が継続されるよう同行支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の間でもお互いに気遣いが見られ、出来ることを協力して行っている。他者との交流が難しい時には職員が間に入り会話の出来る雰囲気を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があればご本人やご家族からの相談に応じ、アドバイスを行うなど利用終了後も安心出来るような支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中からご本人の希望や意向を把握するように努めている。困難な場合はご家族からの情報を頂いている。そしてご本人の状況を考慮して希望・意向に沿ったケアプランを作成している	毎日の暮らしを支えるお付き合いの中から、利用者個々の思いや意向の把握に努め、検証をしながら職員間で共有に努めています。また、家族からの情報は大切にしながら介護計画に反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中から生活歴や日々の暮らしの様子を知り、以前のサービス利用・ご家族と情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況・状態を観察しご本人の出来る事、出来ない事の見極めを行い利用者本人が有する力を発揮出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の要望を介護計画に反映させ医療面・介護面などの情報を取り入れ状況に即した介護計画を作成している。	介護計画の項目に基づいた日々のモニタリングにより、細やかに記録された気付きノートや連絡帳などを計画の見直しに役立てています。また、家族の意見、担当職員の気付き、さらに主治医のアドバイスが一体となって利用者を支えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での変化を個別に記録し職員間で情報の共有や報告などをし介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人ご家族の要望、意向を基に職員全体で話し合い、その時々生まれるニーズに対応できるよう支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会、地域住民との交流を行いご自宅で生活をしていく時と変わらない豊かな暮らしを過ごしてもらえるような支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医にはご家族や職員が通院支援を行い受診をしている。ホーム提携の医療機関からは月2回の訪問診療を受けており歯科訪問診療については必要に応じた対応をして頂いている。	従来からのかかりつけ医への受診は、家族の支援に加えてホーム職員の同行もしくは代行によって支えられています。さらにホーム提携の主治医による月2回の定期訪問診療も家族から喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の身体の変化や健康状態を毎日の申し送りにて伝えている。常に主治医、看護師に相談・助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報交換や相談を入院時、または電話に様子を把握してきている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームでは終末期ケアは行っていない。入居する前に重度化した場合や終末期のあり方についてご本人やご家族に十分な説明をし理解を頂いた上で、同意書を交わしている。	現在のところ、ターミナルケアまで至っていない状況にあり、今後の取り組むべき課題の一つとなっています。入居されるときにはホームの体制を説明して家族から同意書を得ていますが、内容的には不備があり十分な説明書(指針)となるよう改善する予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部の研修会に参加し知識などを得て対処している。緊急時マニュアルを作成し内部研修・訓練を行い緊急時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年度で2回、消防署に届出を行い日中・夜間と避難訓練・消火訓練・通報訓練など行っている。その際は、地域住民に参加をお願いしている。	消防署の協力を得ながら災害時の昼夜を想定した避難訓練が実施されています。また、訓練に際しては町内会長及び老人会からの参加もありますが、夜間の災害等を想定した場合、地域の支援体制に若干の不安を拭えません。	運営者は、運営推進会議などで地域の協力要請を行っていますが、まずホームとして臨場での細部に亘るマニュアルの作成が急がれます。地域の方々の支援ポジションも明確にしたマニュアル作りの取り組みが強く期待されます。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者、ひとり一人の人格を尊重し配慮を持って対応している。	利用者の人格を尊重した支援は、プライバシーを損ねないケアを強く認識しながら日々の暮らしの中で活かされています。普段の声かけ、トイレ誘導、入浴に際しては特に配慮することとしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望の表出、自己決定の出来る雰囲気づくりを働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様の希望に添えるように声がけに配慮して支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞いたりその方のペースに合わせて調理のお手伝いをして頂いたり洗い・濯ぎ・拭きと当番でのお手伝いをしていただき支援をしている。	1階のユニットでの献立作り及び食材は業者に委託しています。調理は職員が行い、家庭的な味付けなど利用者に喜ばれています。また2階のユニットでは利用者の意向が反映された職員手作りの食事が提供され、笑い声が絶えない食事風景を見ることが出来ます。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月に1回の体重測定にて管理を行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの口腔内の状況の方に合う口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の状況に合わせて日中はリハビリパンツやパットなどをつかい自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。	職員は利用者の排泄パターンを把握しながら、それとない誘導によりトイレでの自立排泄を促すよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事や飲み物を取り入れ一人一人に対応を心掛けている。			
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に配慮して週2回を目安に支援している。	利用者の体調を第一に考え、週2回～3回を目処に入浴の支援が行われています。本人の希望や体調により柔軟に対応して楽しんでいただけるよう配慮しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自のペース・状況に合わせて過ごしていただいているものと思う。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診、往診のファイルがあり利用者ひとり一人服薬や症状、状態の変化の確保に努めている。処方箋の内容や用法をなどは薬局等と連絡を密に出来ている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理など日常的な面で家事当番を決めて行っている。又、カラオケや買い物など行事に参加して頂き楽しみや気分転換などの支援に努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けなような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者に希望を聞き行事を計画し実施している。行事の時にはご家族にも参加を呼びかけている。	ホームの周囲では坂道が多いため、比較的平坦な道を散歩道として選びながら外気浴を楽しんでいます。夏季には畑仕事に精を出し、秋には収穫を喜び合うなど家庭的な雰囲気をそのままにご近所づきあいも続きます。また、動物園や公園での花見、海の家までドライブなど楽しみが満載です。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は事務所にてお小遣いとして預かり管理しているが、それ以外に自己管理できる方はお財布を所持いただき支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があった時には都度、ご本人より電話をして頂いている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常時、民謡・演歌・童謡などなじみのある音楽を流し居心地の良い雰囲気作りに努めている。リビングでは天井に装飾をし利用者が季節感を感じる空間作りをしている。	利用者が寛ぐ居間及び食堂は、広く開放感に満ちており、窓辺など随所に置かれた植物の花々は潤いのある共有空間作りに一役買っています。廊下に飾られた利用者の笑顔満載の写真の数々には思わず足が止まります。天井からの優しい照明や適切に配慮された温・湿度など居心地の良い共用空間となっています。毎日食後には床掃除を職員と利用者の共同作業で行われており、清潔感に満ちています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや憩いの場ではテーブルや椅子を置き利用者が集まって談話や手芸やパズルを行える空間を作っている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具が配置しており、利用者の安全が配慮されて居心地のよい暮らしが出来るように配慮している。	壁面に埋め込まれた収納庫を利用することにより居室が広く使われており、整頓された空間を見ることができます。家族の写真や絵画など馴染みの家具と共に居心地の良い安心の空間となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止の為、手すりやエレベーターを配置しており利用者の安全に配慮している。トイレには利用者が見て分かりやすいように大きく張り紙や目印をつけている。			